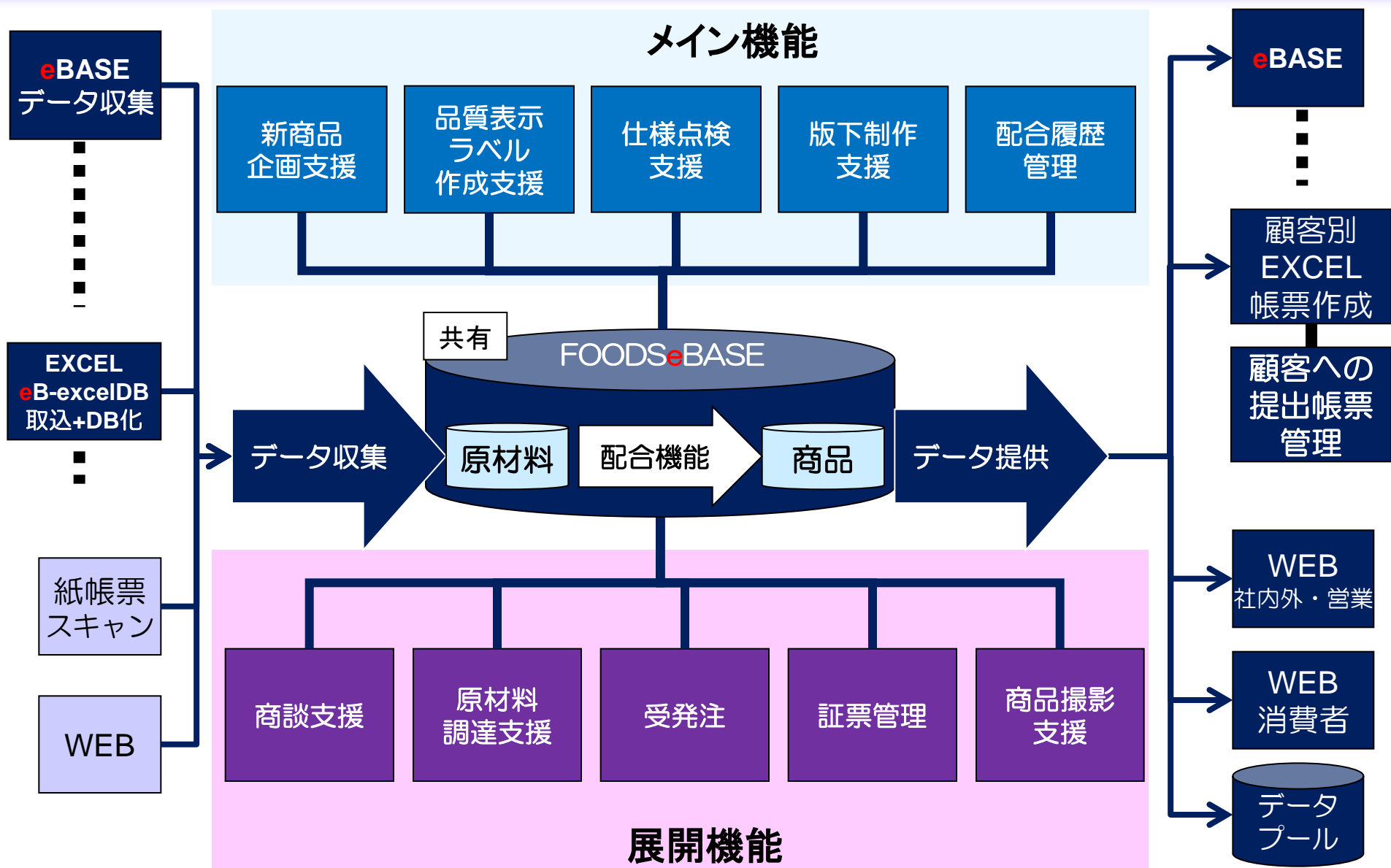


ヤマモリ株式会社様
導入事例紹介

2011年10月7日

FOODSeBASE 全体機能マップ



FOODSeBASE システム利用範囲

①データ収集

- ・ 仕入先からの原料、商品規格書の情報収集ツールとしてeBASEjr.を利用
- ・ FOODSeBASEの標準管理項目以外はアドオン画面で情報収集

②製品配合管理

- ・ eBASE形式で収集した原料規格書情報を用いた製品の配合情報作成
- ・ 配合情報を用いた「一括表示原材料名」作成支援機能、栄養成分自動計算機能の利用

③データ活用

- ・ eBASE形式で収集した原料情報、商品情報を社内で一元管理
- ・ 得意先フォーマットのエクセル帳票へデータを自動出力
- ・ 検索機能とデータ出力機能を用いた、各種リスト作成

④Web公開

- ・ Webブラウザを利用してFOODSeBASEのデータを検索・閲覧
- ・ エクセル帳票出力機能・データダウンロード機能の利用

ヤマモリ株式会社 様

①データ収集

②製品配合

③データ活用

④Web公開

■事業内容 業務用・家庭用向け
醤油・つゆ・たれ・スープ・レトルトパウチ食品・飲料等の製造販売

■eBASEシステム利用範囲
仕入れ先からの原料情報の収集
自社製品商品情報データベース構築
得意先への商品情報提供

■導入経緯
安全・安心への取り組みとして2001年に品質保証部にて自社基準を策定
またお客様への広範囲、より正確で迅速な情報提供、説明責任を果たすため
にはシステム化が必要と判断
2009年10月よりFOODSeBASEを用いた原料規格書情報の収集を開始
運用開始にあたり仕入れ先様向けの説明会を東京・名古屋にて計6回実施

■eBASEjr.配布企業数 原料供給メーカー 数百社

■システム特徴 eBASEserver内に複数のデータベース管理領域（ボリューム）を
作成し部門ごとに必要なデータを管理、運営

eBASEserver 導入前

取引先から配布されたeBASEjr.が社内で複数利用されていた。

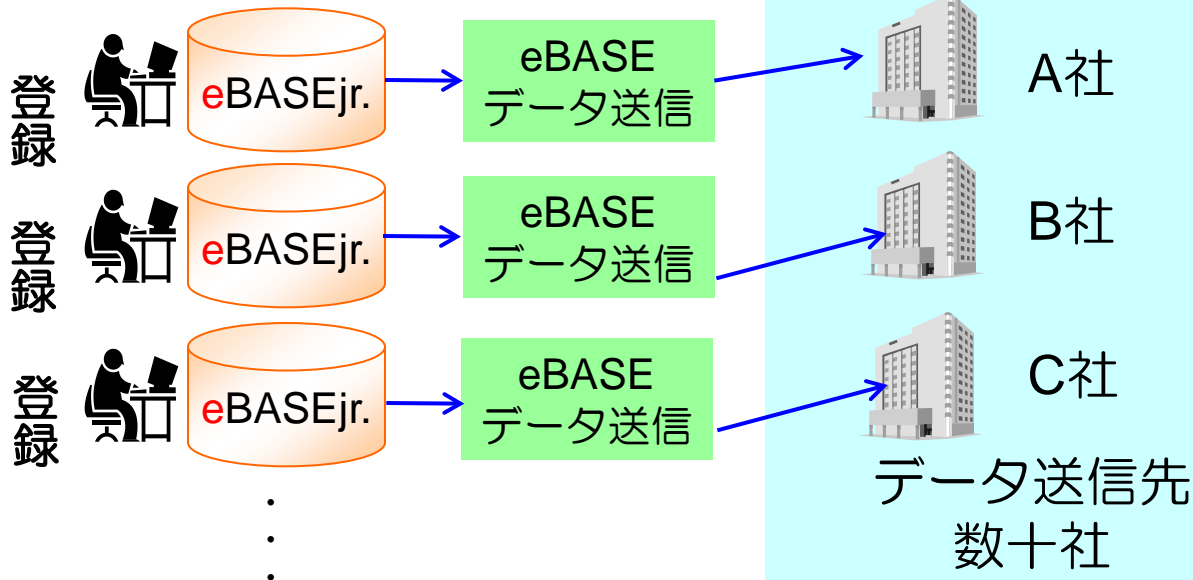
ヤマモリ様

課題1

各PCごとの管理なので
情報の整合性がとれない

課題2

各担当者が各々のPCで
同じ製品の情報を登録
重複した作業が発生



課題3 : eBASE以外での商品情報データ提供作業にも
時間と手間を取られていた

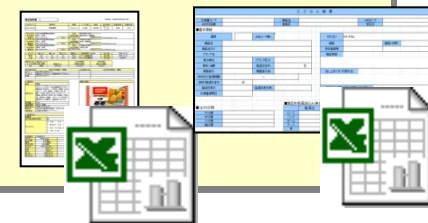


取引先フォーマットの
エクセル帳票に
情報を転記

Excelで提出

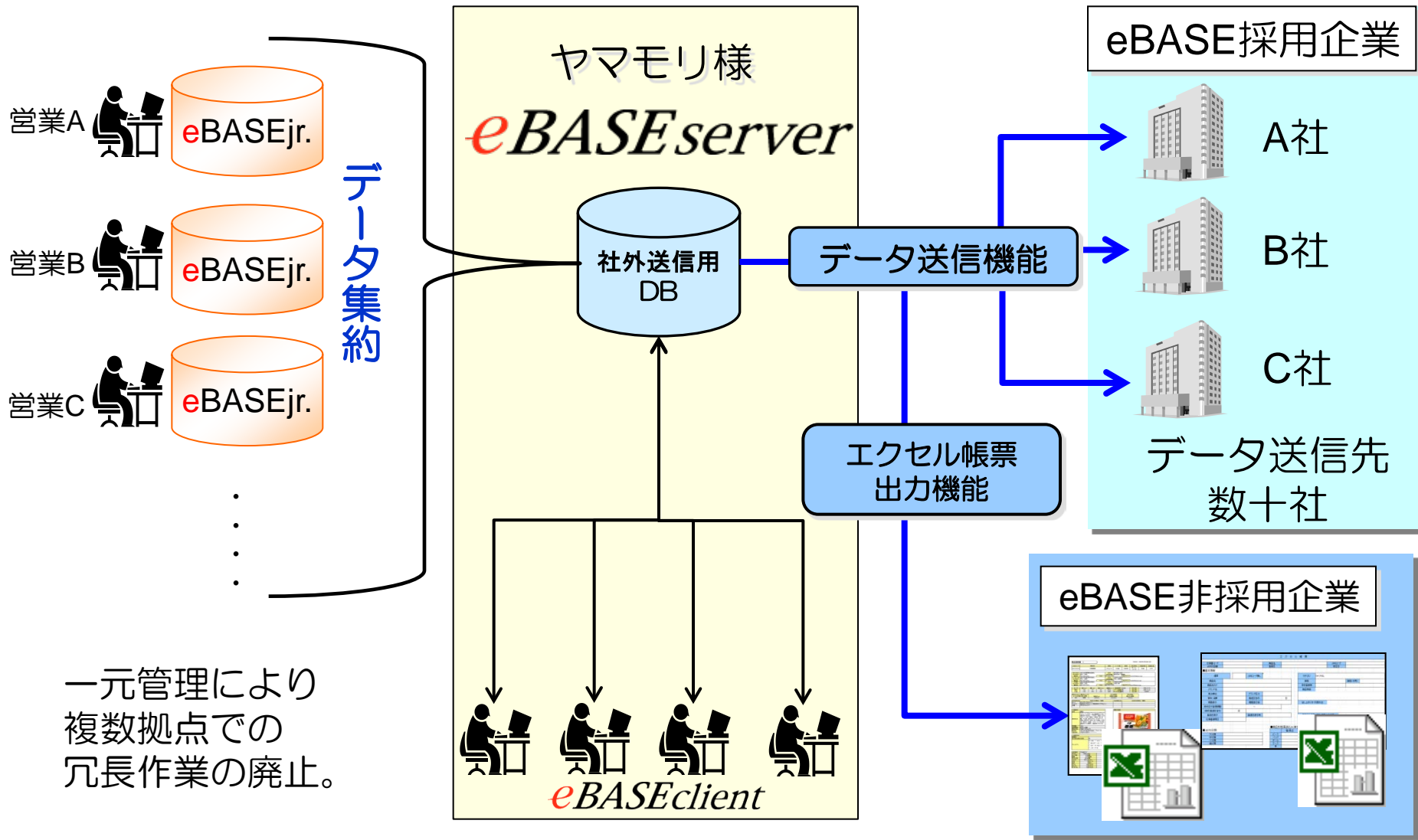


eBASE非採用企業



eBASEserver 導入後 (データ集約)

社内に点在しているeBASEjr.のデータをeBASEserverに集約

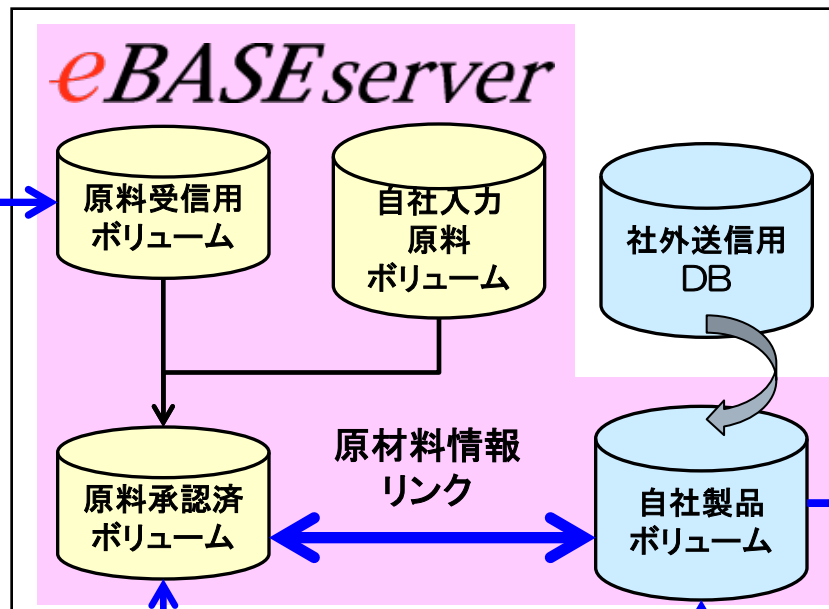


eBASEserver 導入後 (データ収集・配合)

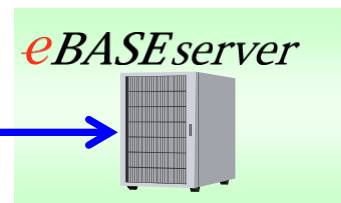
① eBASEjr形式データ収集開始



② 製品配合機能の利用開始



● 小売企業・食品メーカーへのデータ送信



eBASEで
データ収集している
企業へデータ送信

eBASEデータ
送信企業 数十社

● 社内商品情報データベース活用

データ抽出
加工・資料作成

問い合わせ対応



対象商品情報を各種条件で検索
必要な情報のみをデータ出力

● 得意先への商品情報提供 (エクセル)

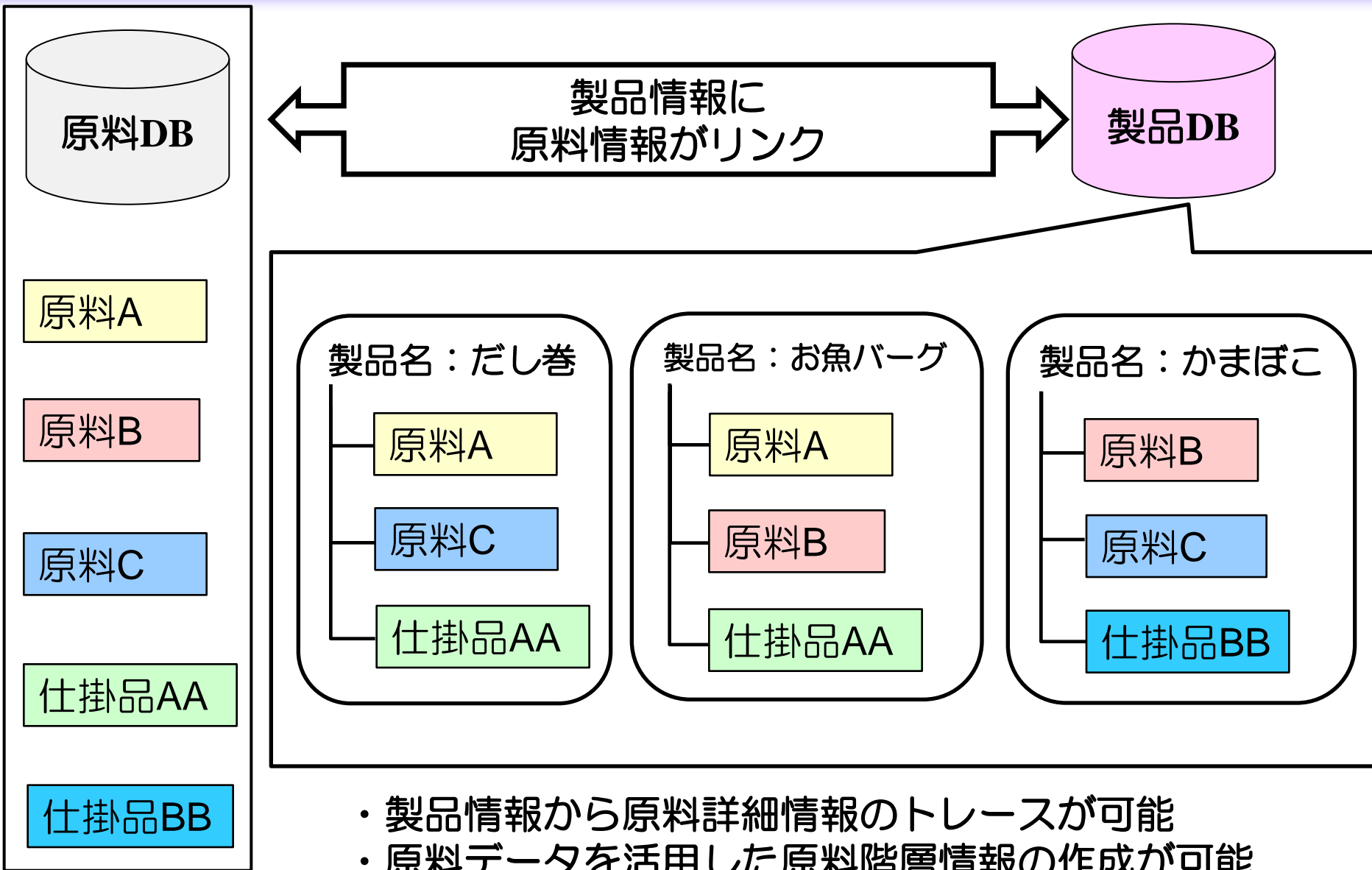
得意先別 エクセル帳票出力

自社フォーマット エクセル帳票出力



エクセル帳票ライブラリ 35種類

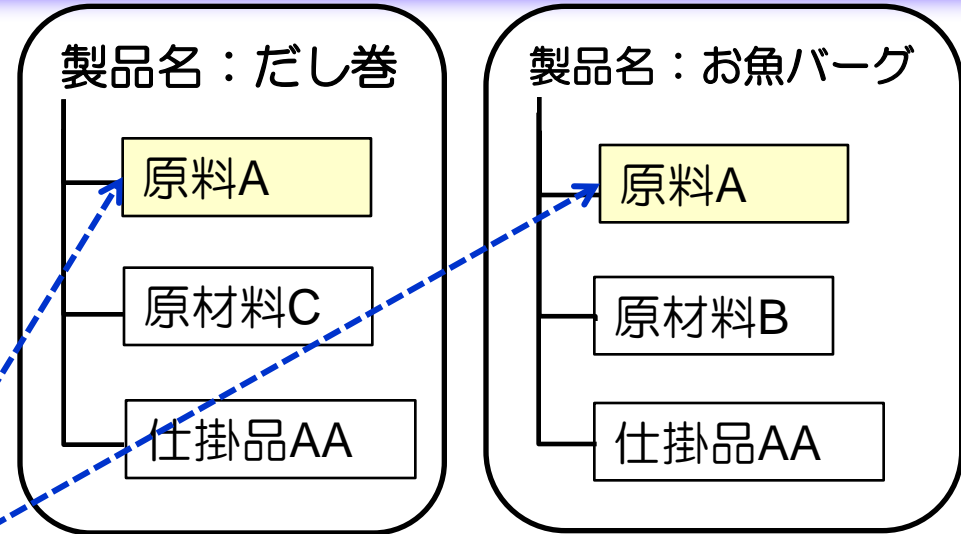
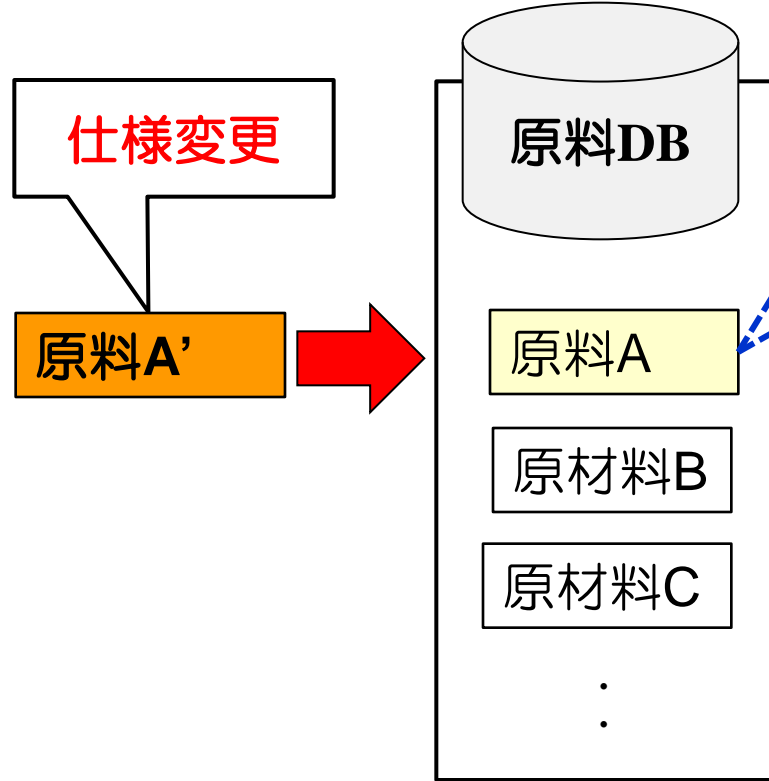
製品配合機能の利用(原料構成情報管理)



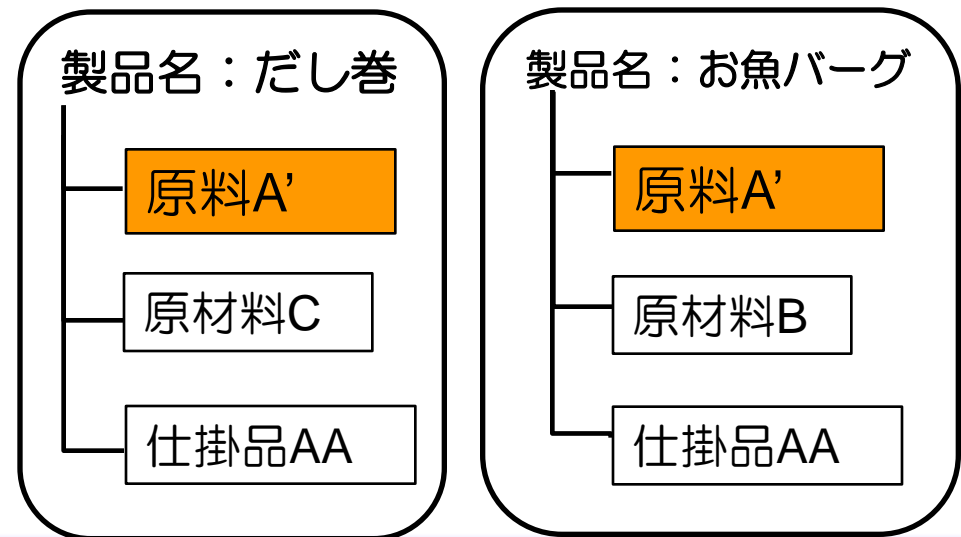
- ・製品情報から原料詳細情報のトレースが可能
- ・原料データを活用した原料階層情報の作成が可能

原料更新機能の利用

原料仕様変更情報を
製品データベース側に伝達し
差替え対象データを抽出可能



差替え時
手動or自動
選択可能



利用頻度の高い原材料の
仕様変更時のデータ更新
作業負荷を軽減！！